

「宮城県を元気にする高知応援隊」に参加して

(株)第一コンサルタンツ調査2課 山中 大

1. はじめに

3月11日に東北3県を未曾有の大地震大津波が襲った。被災状況がテレビで毎日放送される。これを見た私は、自分にも何かできることがないか考えていた。考えても為す術がない。

突然に今回の話が舞い込んできた。私は少し考えた。ボランティアで力仕事ならできると思い二つ返事で返す。

2. 寄贈車の輸送(16日(木))

午前11時、(株)第一コンサルタンツの社員一同に見送られながら車2台に3名ずつ分乗し、宮城県仙台市に向け出発。高知から高松道を経由し瀬戸中央道に入る。瀬戸大橋では風速8m。風にあおられながらも無事通過。名神高速の草津PAで4回目の休憩を取る。天候は雨。晴れていれば琵琶湖が綺麗に見えるはずであるが残念。夕方に北陸道に入る。この頃から皆に少し疲労感が見え始めたので、一人あたりの運転距離を約100kmを目安に交替することにした。夜中に磐越道に入る。皆終始無言が続く。眠気と闘いながら磐梯山SAに到着した。午前4時半頃だと思うが、少し空が白んでき始めていた。東北道に入り翌朝の7時頃2台共に、約1200kmの長い長い道のりを無事仙台に到着した。



出発前：会社駐車場にて

3. 現地視察(17日(金))

午後1時に仙台駅東口近くの代々木ゼミナール前で後発組と合流し、バスに乗り被災地の視察に向け出発する。

まず、多賀城市内を車中から見て回る。至る所で道路の陥没や傾いた電柱が目飛び込んでくる。



瓦礫の山、押し流された車の山も次々と現れた。



次の視察先は七ヶ浜町であった。バスから降りたって周囲を見回すと、しばらく言葉を失っていた。引き波で海に流された散乱したコンテナ群、家屋の基礎部分だけを残した住宅跡。





建物は残っているが壁が突き破られた家。中は瓦礫の山。今日の視察は以上であるが、今回の視察ほど大地震・大津波の脅威を感じたことはなかった。



夜は、ボランティアで来た私達に、松島町の麵好(めんず)クラブの方々が朝から打って準備したそばをごちそうしてくれた。心のこもった夕食のおもてなし有難うございました。大変、おいしかったです。



4. 炊き出しの日(18日(土))

この日は、南三陸町と気仙沼市に分かれて行動をする。私は先発隊として午前6時に南三陸町に向け出発。地震の影響で三陸自動車道は陥没だらけ。自動車道を下り国道398号を南三

陸町に向け進むこと約20分。海に近づくとつれ398号沿いには、瓦礫の山が目につきだす。さらに町中に進むと、前日に見た多城市や七ヶ浜町を凌ぐ光景が目に入る。

残されているのは鉄筋作りの南三陸町役場や公立志津川病院等である。防災対策庁舎はテレビでよく放送されていたが、それを見た瞬間は言葉を失った。



骨組みだけが残った防災対策庁舎



公立志津川病院

目的地の志津川高校に着く。トラックから荷物を降ろし、前夜打合わせした要領で準備を始める。私は揚げもの担当である。フライヤーにガスホースをつなぎ火を入れようとするが、なかなか火がない。悪戦苦闘の末20分後ようやく着火。油が温まるまで約20分。母の手伝いで30食位は経験積みだが、300食を作るのははじめて。少々焦りが出てきた。



11時30分に150食分の炊き出しを取りに来ると聞いていたので油が温まり次第揚げる。何とか11時30分前には唐揚げとナスタタキを準備できた。



12時のサイレンとともに避難所の方たちが次々とトレイを持って炊き出しを取りに来た。



お年寄りから小さな子どもたちまで、少し遅れて中高生がやってきた。子どもたちにはやはり唐揚げは大人気である。「唐揚げはうまい」の声が聞こえる。この時、今回参加して本当によかった、宮城に来たかいがあったと思った。

炊き出しも終わり、避難所の方々と一緒にスポーツ MAX の鈴木先生による簡単な体操をする。ジャンケンゲームなど頭の体操になる運動を避難所の方々と短い時間ではあるが一緒に楽しく過ごした。



避難所の老人と楽しくジャンケンゲームをする右城社長 3

次に、よさこい鳴子踊りをみんなで踊る。鳴子を避難所の方に贈呈すると、皆が大変喜んでくれた。鳴子を両手にして見よう見まねで笑顔で踊っている姿を見て、私たちもおのずと笑顔になっていた。



最後に避難所の方たちと記念撮影をして志津川高校を後にした。



5. ボランティア(19日(日))

朝8時、「宮城県を元気にする高知応援隊」の解散式を行い、お世話になった方々にお礼を述べ多賀城市に向け出発する。



多賀城市に向かうタクシー中で、運転手さんが地震の被害、津波の被害等色々な話を聞かされた。それを聞いて、今まで見てきた被災地と重なり思わず涙がこみ上げてきた。

8時30分過ぎに多賀城市役所に到着。災害ボランティアセンターで受付を済ませる。ボランティアに来ている方は県外の人が多いように思えた。



室内に入り、順版に椅子に座る。作業の内容、人数等の説明を受け、並んだ順番で現地に赴く。



私たちは22名で大代地区公民館の体育館へ行き、清掃をすることになった。当社では自分を含め7名での参加で、それ以外は県外の方たちだ。9時30分に現地に到着。体育館に入ると、床面が大きく捲れて波打っている。そこには、テーブルが置かれ、津波で流されたと思われるアルバムや遺影の写真が山積みになっていた。仏壇、優勝カップなどもあった。すべてが泥だらけであった。



二箇所から水をまき、10人がブラシでフロアを磨き、10人がゴムワイパーで水を掻き出した。初めて顔を合わす人たちと声を交わすこともなく淡々と作業を進めていく。そのうちに妙な一体感が生まれ始めた。作業は小一時間で終了した。



これで終わりかと思うと物足りなさを感じるが、ボランティアセンターに帰る。係の方から、「今日の作業予定は終了した」と告げられた。充実感も無いまま待機していると、係の方から「応援の要請が入ったので、行っていただけないか」と声を掛けられた。社員10名全員で向かうことにする。作業の内容は、家屋内に溜まった瓦礫や泥の撤去であった。朝から作業を行っていた方10数名と合流し、リーダーの方から説明を受ける。リーダーの方に話を聞くと、この家は昨日から作業を行っているとのこと。作業に取り掛かると、埃が舞い始める。ゴーグルとマスクは必需品だ。皆が作業を手際よく進め2時半頃に終了する。ボランティアセンターに帰り一緒に作業をした方々と記念撮影。未だ手つかずの家が多い。まだまだ人の手が必要だと思いつつ多賀城市を後にした。



6. 自由行動(20日(月))

帰りの新幹線まで時間があるので、当社の10名で2日間お世話になった松島町へ観光に行くことにした。松島海岸駅前で遊覧船切符を買い遊覧船乗り場へ行く。船で沖合へ行くにつれ小さな美しい島々が目に入る。被災地に来ていることも忘れ見入っていた。



12時に松島を後にし、高知への帰路に着く。午後8時30分、無事に高知龍馬空港に到着。4泊5日の日程をすべて終えた。

7. おわりに

今回は非常によい経験ができた。有事の際に我先に逃げるのではなく、お年寄りや子供たちに声を掛け、皆が無事に逃げることの大切さを勉強させていただいた。

ボランティアに参加して一番に思うことは、宮城県で見て、聞いて、体験したことを今後起こりうる南海地震に活かしていかなければならないということだ。

再度ボランティアに行きたいと思いつつも、仕事の都合上行けないのが現状である。被災地の1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。